

第1回府中市学校施設老朽化対策推進協議会の開催結果

- 1 日 時 平成29年7月26日(水)午後3時～午後5時
- 2 場 所 府中市役所西庁舎第2委員会室
- 3 出席委員 11名(五十音順)
金子崇裕委員、河井文委員、柴崎金勝委員、田中友章委員、
田中英樹委員、田辺昭委員、内藤治委員、長谷川紀子委員、
松本幸次委員、村越ひろみ委員、森岡耕平委員
- 4 欠席委員 3名(五十音順)
宇都宮聡委員、佐伯義夫委員、志水清隆委員
- 5 出席職員 浅沼教育長、関根教育部長、山田学校施設課長、
藤原学校施設課長補佐、遠藤学校施設課主査、
岸野学校施設課事務職員
- 6 傍聴者 なし
- 7 内 容 (1) 委嘱状交付
(2) 教育長挨拶
(3) 委員紹介
(4) 正副会長選出
(5) 諮問
(6) 議題
ア 府中市学校施設老朽化対策推進協議会の運営方法について
(7) 会議の公開について(傍聴希望への対応及び会議録の公開)
(4) 今後の開催スケジュールについて
(5) 今後の資料等の事前送付について
イ 府中市の学校施設の現状について
ウ その他
- 8 配布資料 資料1 府中市学校施設老朽化対策推進協議会規則
資料2 府中市学校施設老朽化対策推進協議会委員名簿
資料3 府中市学校施設老朽化対策推進協議会の公開について(案)
資料4 府中市学校施設老朽化対策推進協議会の今後の開催予定(案)
資料5 府中市学校施設改築・長寿命化改修計画と各種計画の関係性
について
資料6 府中市の学校施設の現状について

会議録

事務局 それでは、皆様こんにちは。定刻となりましたのでただ今から第一回府中市学校施設老朽化対策推進協議会を開催いたします。

委員の皆様におかれましてはお忙しいなか、本日の会議にご出席くださり、誠にありがとうございます。

会議の開催にあたりまして、はじめに事務局からのお願いでございますが、議事録の作成をスムーズに行うために会議の開催中は録音をさせていただきます。また、本日の第一回会議におきましては広報用の写真も数枚撮影させていただきますので併せてご了承をお願いいたします。

続きまして、配布資料の確認をさせていただきます。皆様の机の右側には上から委員の皆様のお名前が入った委嘱状・諮問書の写し及び席次表を配布しております。また、左側には会議次第のほか資料1「府中市学校施設老朽化対策推進協議会規則」、資料2「府中市学校施設老朽化対策推進協議会委員名簿」、資料3「府中市学校施設老朽化対策推進協議会の公開について(案)」、資料4「府中市学校施設老朽化対策推進協議会の今後の開催予定(案)」、資料5「府中市学校施設改築長寿命化改修計画と各種改築の関係性について」、資料6「府中市の学校施設の現状について」をお配りしております。

資料の不足等はありませんでしょうか。

それでは議題に沿って進めてまいります。

本来であれば、資料1「府中市学校施設老朽化対策推進協議会規則」の第4条にございますとおり、この協議会につきましては会長に議事を進行させていただきますが、会長が決定されるまでの間、事務局で代わりに進行させていただきますのでよろしくをお願いいたします。

次に本日の委員の皆様の出欠席の状況でございますが、3名の欠席、1名の遅刻となりますが現時点で委員10名にご出席いただいております出席人数は過半数に達していることから、今回は有効に成立することとしてご報告いたします。

それでははじめに、次第1「委嘱状交付」でございます。

委嘱状につきましては本来であれば教育長から委員の皆様へ直接お渡しするところでございますが、時間の関係で皆様の机の上に置かせていただきました。

これをもちまして委嘱状の交付に代えさせていただきますのでご了承願います。

続きまして次第2「教育長挨拶」に移らせていただきます。

会議の開催にあたりまして教育長から皆様にご挨拶を申し上げます。

浅沼教育長 皆様こんにちは。

教育長の浅沼でございます

このたびは府中市学校施設老朽化対策推進協議会委員をお引き受けいただきまして誠にありがとうございます。また、本日は大変お忙しい中ご出席いただきまして重ねて御礼申し上げます。

第一回目の会議開催にあたりまして挨拶を申し上げます。

府中市教育委員会では、平成25年度に第二次府中市学校教育プラン21において「生きる力」を身に付けた児童・生徒を育むことを目標に、その実現に向けて、「確かな学力を育てる」、「豊かな心を育む」、「健やかな体をつくる」などの7つの柱を掲げ、学校教育にさらなる充実に努めております。

最近では学校教育の充実を図るために、他市に先駆けて普通教室や特別教室の空調整備や照明器具のLED化を行うなどスピード感をもって積極的に教育環境の改善に取り組んでまいりました。

一方、学校施設におきましては、こうした機能的な充実に加えまして、子どもたちが日常の多くの時間を過ごす場所でございますので、安全・安心に学習できる場所にすることが重要と考え、整備してまいりました。

本市の学校施設でございますが、建築後50年を経過している建物もございまして、他自治体と比較しましても老朽化の進行がより顕著なものとなっております。今後、これらの建物が一斉に改築時期を迎えることから、計画的な老朽化対策を行うことが喫緊の課題となっております。

また、老朽化対策の実施にあたっては、教育環境の充実に加えまして、中央部の児童生徒数の増加や少人数指導の実施などによる教室不足への対応、あるいはバリアフリー化など現在、学校が抱える課題の解決を図るとともに、学校施設が生涯学習や文化・スポーツなどの活動の場であることや災害時の避難所として市民にとって最も身近な公共施設であることから、今後の学校施設においては、地域や学校施設に求める様々な機能や役割を捉えた学校づくりを行うことが重要であるというふうに認識しております。

加えまして、本市の公共施設マネジメントに基づきながら財政負担の平準化を図るとともに、将来の人口動態を見越した学校づくりを行うことも不可欠でございます。

2学期からは、いよいよ新学校給食センターが稼働します。最大で2万2千食ということでございまして、量・質ともに日本で一番というふうに考えておりますけれどもこの給食センターから子どもたちに給食を提供します。

また、去る7月13日、第十中学校のプールが完成いたしまして、教育委員の皆様にも視察をしていただきました。体育の水泳の授業で、きれいなプールで喜んで泳いでいる生徒の姿を参観し、大変嬉しく思いました。小中学生が少しでも良い環境で学び、生活してほしいという思いは、私はもちろんですが、教育担当の思いでもあります。

本協議会は1年2か月という長期間にわたり審議をお願いすることとなりますが、委員の皆様には今後のより良い学校づくりに向けて、それぞれのお立場と様々な視点から忌憚のないご意見やご提案を賜りますよう、お願いを申しあげまして、私の挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

事務局 ありがとうございます。

続きまして、次第3「委員紹介」です。

本日配布いたしました、「席次表」及び資料2「府中市学校施設老朽化対策推進協議会委員名簿」をご覧ください。恐れ入りますが、資料2の名簿順に各委員から簡単に自己紹介をお願いいたします。

(各委員が順次、自己紹介)

事務局 ありがとうございます。ここで委員が来られましたので、ご紹介をお願いしたいと思います。

(委員、自己紹介)

事務局 時間の関係もございますので、事務局は名前の紹介のみとさせていただきます。

(事務局、自己紹介)

また、本協議会の運営支援及び計画作成業務の受託業者であります、株式会社山下PMコンサルタンツから5名が本日の協議会に出席しておりますので、よろしくお願いいたします。

続きまして、次第4「正副会長選出」でございますが、資料1「府中市学校施設老朽化対策推進協議会規則」の第3条では委員の互選により定めることとなっておりますが、いかがいたしましょうか。

委員 今、互選ということがあったんですけども、先ほど委員の皆様からの自己紹介もありましたが、新しく設置される会議なので初対面の方も多いと思います。

事務局の方でお考えがあれば、ご提案いただけたらと思います。いかがでしょうか。

事務局 ありがとうございます。事務局といたしましては、公共施設の建築や政策形成等に造詣の深い学識経験者の田中友章委員に会長を、また、学校施設を含めました教育現場に精通された府中市立小中学校校長会の森岡委員に副会長をお願いしたいと考えておりますが、委員の皆様いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

それではここで、会長・副会長にご就任いただく両委員から一言ご挨拶をいただきたいと存じます。

はじめに、会長よろしくお願いいたします。

会長 それでは、会長を仰せつかることとなりましたので、一言ご挨拶をさせていただきたいと思えます。先ほど自己紹介させていただいたように、明治大学の建築学科で建築の計画、設計を教えて研究をしております。

昨年、私が担当している3年生の授業がありまして、単位空間をつなぐ設計の課題を毎年やっているのですが、昨年はどういうものを設計課題で出そうかということで、たまたま小学校を課題に出しまして、府中市のご紹介で色々お願いをして、地域の新しい小学校という課題を府中市内の4つの小学校の敷地を勝手に取り上げさせていただいて、出しました。

その中で小学校というのは本当に身近な公共施設なので、身近な公共施設というを通して、子供たちの地域の関係を新しく捉え直せないかという課題を学生80人に取り組んでもらいました。4つの小学校敷地を選んで、たまたまもともとの小学校の建て替えに加えて、一つは農業と食、もう一つはものづくり、もう一つは子育て支援、4つ目はスポーツというテーマを付け加えて、新しい地域との関係を考えられないかと課題をやったというのが一年ぐらい前で、ちょうど一年ぐらい前に市役所の方でプレゼンテーションさせていただく機会があって、大変学生たちも良い経験をさせていただいたということがあります。その後このお話をいただくことになって、大変興味深いなと思って、これもご縁だなというふうに思って、委員を受けさせていただくことになりました。これから皆さんと1年数か月いろいろ議論をさせていただくことになると思うのですが、先ほどの課題を出した背景には、恐らく皆さんが生活される地域というものと子どもたちが学ぶ場である学校というものが、単なる学校施設と地域というふうな関係ではなくて、これから新しい関係にこれからなっていくのではないかと思っているんですね。

これからいろんな意味で日本もこれから社会が変わっていきますので、そういうことを考えることも関わってくるのではないかと。おそらく直近の問題としてはですね、先ほどお話しがあったように老朽化対策というのがあるのですが、老朽化対策をひとまずやらないといけないね、ということで議論するのはなくて、やはりこれだけみなさんに集まっていたので、それを支えるその地域と学校のあり方をもうちよっと骨太な議論を少しさせて頂いてその上に乗っかって具体どういいうふうにするのかと、そこの基盤となるところですね、話を皆さんと作っていければと考えておりますので、色々十分に気が利かないところもあるかもしれませんが、よろしくお願いいたします。

事務局 続きまして、副会長のご挨拶をいただきたいと思えます。

副会長 改めましてよろしくお願ひいたします。思い起こすとやはり6年前の平成23年の東日本大震災、これをきっかけとして、学校を預かる管理者としての立場と、備えるという意味での見方・考え方が非常に緊張感を持って変わった記憶を今でも鮮明に覚えております。

今、お話にもあったとおり、それは一つの見方として災害に強い学校の在り方という一視点で捉えた瞬間だったと思うんです。

しかしその後、中学校現場においても学校の役割がどういうことなのかということ、改めて捉え直していきますと防災のことについてもそうですが、やはり学校は強固な校舎を持っているだけでは、それだけでは不十分である。学校という場所がコミュニティの中心に置かれているということを受けて、どういうふうにかの時代の時代に合った、これからのニーズに受けた場所にしていくか、コミュニティの面で考えればこれまでの地域の良さを繋いでいく場所であるでしょうし、それから府中市内も色々と人の移り変わりはあると思います。新たな人達が入ってくるという中で、学校という場所を通じて色々な繋がりや広がりを持たせていくということが必要になってくるかなと思っています。こんなふうに考えながら防災の在り方も人のつながりと結びつけて考えていかなければいけないなと思っています。

それからもう一つは、あらゆる障害を抱えながら生きている子どもたちの学ぶ場としての在り方、これも問い直されているところです。本校にも車いすで生活をしていて介助の人をつけながら365日頑張っている子たちがいます。肢体不自由の子もおります。こうした子を受け入れられる学びの場としての在り方。それを応えていくための共通理解にたった学校の在り方、合理的配慮という言葉でこれからの時代の方向性が特別支援教育の中で学校でも捉え直しをしているところですが、多方面から学校の在り方というのを問い直していく必要があると思っています。どうぞよろしくお願ひいたします。

事務局 それでは、会長は会長席にお移りください。副会長につきましては、座席札のみのご移動とさせていただきます。

続きまして、次第5「諮問」でございます。

浅沼教育長から会長に諮問書の伝達をさせていただきます。浅沼教育長よろしくお願ひいたします。

(教育長から諮問書の朗読・伝達)

事務局 大変申し訳ございませんが、浅沼教育長は他の公務があるため退席させていただきます。ここから先の進行につきましては、会長にお願ひしたいと思ひます。

会長 それでは、ここから先は、私の方で進行させていただきますので、よろしくお願ひいたします。まず、議題(1)「府中市学校施設老朽化対策推進協議会の

運営方法について」のうち「会議の公開について」事務局からご説明をお願いいたします。

事務局

それでは説明いたします。恐れ入りますが、資料3「府中市学校施設老朽化対策推進協議会の公開について(案)」をご覧ください。

はじめに、「1 会議の公開」でございますが、本市ではこの学校施設老朽化対策推進協議会を含む附属機関等の会議につきましては、府中市情報公開条例により原則公開するものと定めております。本会議につきましても、資料に記載の例外規定には該当しないことから、この原則を遵守することとしたいと考えております。

続きまして、「2 傍聴希望への対応」でございますが、記載のとおり4点ございまして、1点目は「会議の開催に当たりましては、広報紙及び市ホームページで会議日程及び傍聴について掲載する」、2点目は「傍聴人数は10人以内を定員とし、前日までの申込みを原則とする」、3点目は「傍聴者は傍聴者名簿に必要事項を記入し、裏面の傍聴についての諸注意を確認した上で、指定された場所で傍聴していただく」、4点目は「資料が膨大な場合を除き、当日の会議資料は傍聴者にも原則として配布する」運用にしたいと思っております。なお、本日の会議につきましては、この公開の取扱いが決定していなかったため、開催の告知はいたしませんでしたが、次回からは事前に傍聴の募集も含めて告知したいと存じます。

最後に、「3 会議録の公開」でございますが、「会議ごとに要点記録による会議録を作成し、委員の皆様が内容を確認した後に、市役所3階市政情報公開室、中央図書館、白糸台図書館、西府図書館及び市ホームページで一般の閲覧に供する」形で公開したいと考えております。なお、委員の皆様には、次の会議の開催前に会議録(案)を送付してご確認いただき、次の会議の冒頭で修正の有無を確認し、確定したいと存じます。なお、この会議録の内容につきまして、決定していただきたい点が1つございます。会議録の中で発言者のお名前を明記するか否かにつきましては、各附属機関に運用が委ねられております。議論の過程を明確にするという観点から委員名を明記するという考えもございまして、活発な議論が抑制されないように「委員」という表記に統一する手法もございまして、ご審議願います。なお、他の附属機関におきましては、委員名を明記しない会議録の方が多くなっております。以上でございます。

会長 今ご説明がございました、会議の公開についてご意見やご質問があればお願いいたします。最後の会議録の発言者の名前を記すかどうか、こちらの会議で決めるということですのでその点についてもご意見等がございましたらいただければと思いますが、いかがでしょうか。ご質問等でも結構です。

ご質問がないようであれば基本的な書き方の方は事務局の案のとおりということなのですが、発言者の記載はどうしますか。事務局で案があればお願いいたします。

事務局 最近の傾向では、皆さんに活発にご機論をいただくため、委員名は伏せて、「委員」という形で会議録を出しているケースが多くなっておりますので、委員名を伏せる方向性でも良いのかと思っております。

会長 そのような案ですので、出来るだけ活発に意見を言っていただくことにさせていただいて、委員名は出さずに会議録を作るということで宜しいでしょうか。
(「異議なし」の声あり)

会長 そのように決めさせていただきます。

それでは、続いて今後の開催スケジュールについて、事務局の方から説明をお願いいたします。

事務局 資料4の「府中市学校施設老朽化対策推進協議会の今後の開催予定(案)」をご覧ください。はじめに協議会の開催開始日でございますが、平成30年9月の最終回の会議まで全9回の開催を予定しております。今年度については今回を含めまして5回の開催を予定しております。開催日程でございますが、概ね2ヶ月に1回程度の開催とさせていただきたいと考えております。なお、第2回目の会議につきましては9月11日、月曜日の午後と設定させていただいております。

第3回目以降の具体的な開催日程や、開催時間につきましては、後ほど議題(3)「その他」の中で改めて取り上げさせていただきます。委員の皆様のご都合の良い時間帯等をお伺いしながら、今後の具体的な日程につきましては、事務局側で設定させていただければと思っております。なお、第4回までの日程につきましては、次回の会議の際にお示し出来ればと考えております。

続きまして、主な審議内容についてご説明させていただきます。

本日の第1回会議におきましては、会議の運営方法など基本的な協議会の運営事項を決めていくほか、後ほど、府中市の学校施設の現状等についてご説明させていただきます。審議に先立っての共通認識を持つことを本日のテーマとしたいと考えております。第2回以降については今後テーマの追加変更等がある場合もございますが資料では概ねの予定を示させていただいております。第2回では平成26年度から3か年かけて実施しました学校施設の老朽化調査の結果をご報告させていただき、また、学校施設の課題などを含め学校施設の状況を共有できればと思っております。第3回、第4回では具体的な事例を示しながら、教育施設としてのソフト面・ハード面についてほかの公共施設の複合化や地域への学校開放について、今後の学校施設の目指すべき姿をご審議いただきたいと思いますというふうに考えております。

第5回では、施設の整備方針や維持管理など具体的な整備方針についてご審議してまいりたいと考えております。

平成30年度に入りまして、第6回では学校施設改築長寿命化改修計画のPDCAサイクルにご審議いただき、第7回目以降はこれまで審議した内容を計画素案と

してまとめていきながら9月下旬に開催する第9回の協議会で教育委員会へ答申いただくことを予定しております。なお、表の欄外にも 印で記載させていただきましたとおり、市内の小中学校の現地視察が必要となった場合には全開催回数の中での実施が難しいこともありますので別日程で改めて調整を考えていきたいと思っております。以上でございます。

会長 事務局からご説明がありました、今後の開催スケジュール資料4ですけれど、こちらの方で何かご質問・ご意見いただければと思いますがいかがでしょうか。

先ほど教育長からいただいた、諮問書の方で答申期限が平成30年9月末ということで、これだけのことをやらなければならないので、相当密に会議を開かせていただいて進めていくことになりまして、特に、今年度、少し基盤の部分を議論することとなると、そのあたりの考え方の共有に少し時間を使えればということで案を作っているところであります。何かご質問等はございますか。

委員 次回の9月11日の開催は決定事項になりますか。

会長 9月11日は決定というふうに認識をしておりますが、今後の日程については事務局で調整していただくことになると思います。

お忙しい方がかなり集まっておりますので、出来るだけ事務局の方で調整していただくことにしたいと思っております。なかなか全員が全員で出られないかもしれませんが、出来るだけご協力いただければと思っております。

事務局 次回の開催につきましては、1回目の日程から期間が短いこともありますので、開催日程を9月11日とさせていただいております。次回以降については会長からお話しありましたとおり、各委員さんの都合の良い時間帯等あると思いますので、この後の議題の中で、時間帯だけでも確認していければと思っておりますので、よろしく願いいたします。

会長 他はいかがでしょう。各回の内容に関わることで結構です。何かございましたらご意見・ご質問をお受けしたいと思います。

特にないようでしたら、今後の開催スケジュールについては先ほどご説明があった事務局案をベースに進めていくということにさせていただければと思います。

続いて、議題の(1)「ウ 今後の資料等事前配布について」、事務局から説明をお願いいたします。

事務局 資料がございませんので口頭で説明させていただきます。

次回からは資料4で示したテーマを中心に審議に入ってくださいと予定でございますが、テーマの内容によっては、事前に委員の皆様へ資料を送付させていただきます。

て、お時間のある委員の方には、事前に資料にお目通しいただいた中で審議していければと考えております。その場合の資料の送付の方法については、紙ベースで資料を郵送させていただく方法と電子メールで資料を郵送させていただく方法がございますが、各委員のご希望に沿った形で対応出来ればと思っております。

事務局といたしましては可能な限り、余裕を持って資料送付させていただければと思っておりますが、協議会直前に資料選出してしまうケースが出てくることもあるかと思っておりますので、その場合については電子メールで送付させていただく方が資料送付の時間短縮になりますので有効ではないかなというふうに考えております。

電子メールで資料送付が可能な委員の場合は、事前に電子メールで資料を送付したのちに後日紙ベースで郵送させていただくか、もしくは、当日この場で紙ベースの資料をご用意させていただくことで対応を考えております。事務局といたしましては電子メールで送付が可能な委員の方には電子メールで送付させていただき紙ベースについては当日配布させていただければと考えております。

なお、電子メールでの送付が難しい方につきましては、事前に郵送にて資料を送付させていただければと考えております。

それぞれの委員のご希望に沿った対応をしたいと思っておりますので、この場でご希望がありましたら言っていただいても結構ですし、後ほど事務局の方に言っていただいても構いませんので、よろしく願いいたします。

会長 今、ご説明ありましたように今後の資料等の事前送付については、可能であれば電子メールでの送付を中心にさせていただいて、当日紙ベースの資料を配布して持ち帰っていただく。とご提案がありました。もちろん、郵送のご希望があれば対応いただけるということでした。

これについて、皆様のご意見ご質問はありますか。

特にないようですので、事前送付については各委員の要望を前提に、電子メールでの送付を中心にするということをお願いしたいと思います

個別の要望があれば、今日の会議が終わった時にでも事務局にお伝えいただければと思います。

それでは続いて(2)の議題になりますが、「府中市の学校施設の現状について」事務局の方からご説明をお願いいたします。

事務局 それでは説明いたします。恐れ入りますが、資料5「府中市学校施設改築長寿命化改修計画と各種計画の関係性について」という、A4版横向き資料から説明させていただきます。

この資料では、学校施設改築長寿命化改修計画と各種の関連計画の関係性と今後の老朽化対策のスケジュールについて説明させていただきます。

1の各種計画の策定状況と学校施設の取組について、といたしまして表の上段部分になります。平成25年度から平成28年度までの道路や公園などのインフラと、

スポーツ施設や文化施設などの公共施設の関係計画。また、公共施設のうち公立小中学校における取組等を示しております。

まず、インフラと公共施設に関する基本計画といたしまして、国が平成25年度にインフラ長寿命化計画を定めております。これは中央自動車道の笹子トンネルでの天井板の崩落により9名方が犠牲となる痛ましい事故が発生いたしましたが、この事故を契機に厳しい財政状況においても費用の平準化やコストの縮減に努めながら、老朽化が進むインフラや公共施設の老朽化対策を計画的に確実に進めていく重要性が示されています。

この計画を受けまして、行動計画として国及び地方公共団体の各施設管理者はその基本計画に関する行動計画として平成28年度までに作成することとされており、府中市ではインフラと公共施設を含めた、府中市公共施設等総合管理計画を策定いたしました。

なお、本市では老朽化するインフラと公共施設について、計画的な老朽化対策を実施するため、府中市公共施設等総合管理計画を策定する前にインフラでは、府中市インフラマネジメント計画、公共施設では府中市公共施設マネジメント推進プランを作成しております。

1の表題、中段より下が公立小中学校に関する内容を記載しております。市では公立小中学校の老朽化の状況を把握するため平成26年度からの3か年にわたり学校施設老朽化対策調査を実施してまいりました。この調査では、校舎や体育館などの学校施設全体の構造躯体や意匠設備等の劣化状況をまとめておりまして、今後の学校施設の老朽化対策を実施するにあたり、ハード面からみた老朽化対策実施校の優先順位を決めるための資料となるよう現在、調査結果の取りまとめの作業を行っております。この結果につきましては次回の会議であらためてご報告させていただきます。学校施設長寿命化改修計画については文部科学省から平成32年度までの策定を求められており、府中市公共施設マネジメント推進プランのさらに個別の老朽化対策に関する計画として右端の赤囲みのとおり、平成29年度から計画の作成作業に着手したところでございます。また、公共施設マネジメント推進プランに載っているモデル事業として、黄色の囲みの学校施設のさらなる活用と地域プールの見直し、平成28年度に作成され平成33年度に地域プール4つを廃止する方針が決定しておりますが、今後、地域プールの代替として地域の方々へ学校プールを開放することの検討も必要に応じて発生してくるものと考えております。

続いて、下段の表に移りまして、2の府中市学校施設改築長寿命化改修計画の策定についてでございますが、平成29年度以降の取組について、本協議会の位置付けと今後の各校の整備事業の進め方を示しております。今年度から小中学校全体の老朽化対策計画となる、府中市学校施設改築・長寿命化改修計画を平成30年度に策定することを目指し、作成作業に着手しています。この計画は建築後50年を経過した学校施設が一斉に改築時期を迎えることから、財政負担の平準化を図りな

がら、児童・生徒が安全・安心に学習できる場を確保できるよう、計画的に老朽化対策を進めていくことを目的としております。

また、この計画策定にあたっては教育環境の充実を図ることに加え、将来の児童・生徒数の動向や教室不足への対応、バリアフリー化など現在の学校施設が抱える課題の解決を図るとともに、学校施設が文化活動やスポーツ活動の場であること、また、災害時の避難所として最も身近な公共施設であることを含め、今後地域における様々な機能や役割を捉えた学校づくりの考えを盛り込んで行く必要があると考えております。その計画の素案を作成するため、として本協議会を設置し皆様にご審議をお願いしているところでございます。

平成31年度以降は各学校での整備事業に移行してまいりまして、学校ごとの基本構想、設計、整備工事という工程を経て1校あたり概ね4年から5年をかけて老朽化対策を行っていく予定でおります。資料5につきましては、以上でございます。

続きまして、資料6「府中市の学校施設の現状について」の説明をさせていただきます。

資料6では学校施設の現状といたしまして、学校施設の状況と児童・生徒の状況についてご説明をさせていただきます。初めに、1の学校施設の状況の(1)府中市の公共施設全体に占める学校施設の割合でございます。府中市の公共施設は平成24年度府中市公共施設マネジメント白書において、全体で約64万㎡とされており、その内訳を表及び円グラフで示しております。その中で最も多いのが、小中学校を含めた学校教育施設が公共施設の約43%を占めており、約27万㎡となっております。

2ページをお開き願います。

(2)府中市の公共施設の改築年度をグラフでお示ししております。

このグラフは昭和36年以前から平成24年度までに新設もしくは増築を行った公共施設の延べ床面積を示しております。黄緑色が小中学校を含めた学校教育施設で、ピンク色がそれ以外の公共施設となっております。また、グラフ内に記載した数値は小中学校の新築もしくは増築を行った延べ床面積となっております。昭和36年度以前のピンクの部分につきましては、市庁舎になっておりまして現在最も古い公共施設となっております。このグラフの特徴として、昭和30年代から昭和50年代半ばにかけてきみどり色の棒グラフが多くを占めているところで、これは公共施設の中でも小中学校の建築年度が古いことを示しております。このことから学校施設の老朽化対応が公共施設の中でも喫緊に対応すべき課題となっていることがわかるかと思えます。

3ページをお開き願います。

このページでは、(3) 府中市の小中学校施設の概要といたしまして、それぞれの学校の延べ床面積と校舎の竣工年度及び校舎と体育館の築年数を小学校と中学校に分け、一覧表にまとめております。

はじめに小学校でございますが、市内の小学校は全部で22校ございまして平成28年度末時点の小学校全体の延べ床面積は14万7,511㎡となっております。延べ床面積で見ますと、最も大きい学校は第一小学校で9,217㎡、最も小さい学校は矢崎小学校で5,119㎡となっております。この表からも各学校によって大きさにバラつきがあることがわかるかと思えます。

その隣の列は、校舎の竣工年度でございますが、各学校が保有する校舎のうち児童が利用する最も古い棟について、その年度を和暦と西暦でそれぞれ示しております。最も古い建物を保有する学校は第七小学校になりまして昭和37年の竣工となっております。また、最も新しい小学校は平成24年度に改築工事を行った第十小学校となっております。その隣に移りまして、校舎と体育館の築年数を記載しておりますが、校舎では先ほどのとおり第七小学校が建築後55年を経過しております。

次に体育館ですが、第二小学校から第六小学校までの各校と、第八小学校が52年で最も古い体育館となっております。小学校の校舎では第二小学校と第十小学校を除きまして、すべての学校が築後40年以上を経過している状況となっており、その半数が50年を経過している状況でございます。また、小学校については校舎及び体育館では築年数が概ね同年数となっております。こちらが小学校の特徴となっております。

次に中学校ですが、市内の公立中学校は全部で11校ございます。平成28年度末時点の中学校全体の延べ床面積は12万4,900㎡となっております。延べ床面積みますと、最も大きい学校は第三中学校で1万3,345㎡、最も小さい学校は第十中学校で8,675㎡となっております。その隣の校舎の竣工年度でございますが最も古い校舎を保有する学校は第一中学校で昭和38年度の竣工となっております。資料上で最も新しい小学校は平成19年度の第三中学校となっております。なお、第五中学校につきましては表の欄外の印の3に記載したとおり、平成24年度に改築工事を行っておりますが、特別教室棟は改築を行っていないために、昭和51年度が最も古い校舎として今回は記載しております。

校舎では先ほどのとおり、第一中学校が建築後54年を経過しており、体育館では第八中学校が建築後44年経過しています。なお、第三中学校、第十中学校、浅間中学校を除きすべての学校の校舎で築後40年以上を経過している状況となっております。中学校の体育館においては第二中学校から第七中学校が築年数20年から30年程度となっており、校舎と体育館で建築年数に開きがございます。これは平成の始め頃から武道場の建設にあたりまして体育館と武道場を複合化し、体育館を新設したことによるものとなっております。

続きまして、4ページをお開き願います。

こちらは府中市の小中学校の位置図を示しております。赤い線は小学校、青い線は中学校の学区域をそれぞれ示しております。こちらの地図は全体の配置感を見ていただくために参考に掲載しましたが、同じ資料を資料の一番下に別途資料として配布させていただきましたので、具体的な議論については今後こちらにも活用していただければと思っております。

資料に戻りまして、5ページをお開き願います。

(3) 府中市と全国の学校施設の整備時期についての資料でございます。きみどりの棒グラフが府中市の小中学校の建築年数を示しており、単位は平方メートルで左側の軸に記載しております。青色の折れ線グラフは全国の小中学校の建築年を示しており単位は千㎡で右側の軸に記載しております。こちらのグラフの特徴として2点ございまして、1点目はグラフ左側の赤の点線で囲んだ部分になりまして、昭和30年代以降は既存の木造校舎を鉄筋コンクリート造への建替えを行ったり、昭和40年代以降の第2次ベビーブームにより人口の増加が始まったことに対応するため、小中学校の新設が始まった時期となっております。府中市の整備状況は昭和30年代後半から昭和50年代初頭にかけて整備の山を迎えております。それに対し、全国を見ても、昭和40年代半ばあたりから昭和50年代半ばあたりにかけて整備の山ができております。本市は都市部に比較的近く都心部から電車のアクセスが非常に良好なことから、パターンとして人口増加が始まったのが全国と比較しても早い状況になります。このような影響から学校施設整備についても5年から10年ほど整備が早く始まるという特徴となっております。

次に、平成元年から平成15年まで赤く四角で囲んだ部分ですが、中学校に武道場の設置を行ったことにより、山ができている状況となっております。

6ページをお開き願います。

(4) 近年の学校施設の整備時期と、その内容について。重複しているデータもございまして説明させていただきます。昭和30年代では第四小学校や第五小学校などで既存の木造校舎を鉄筋コンクリート造へ建替えを行っております。昭和35年度から56年度にかけて第2次ベビーブームなどの人工増加やベッドタウン化に伴いまして第三中学校を皮切りに小学校13校、中学校7校の開校に伴う新築工事を行っております。

続いて、平成に入りまして中学校の武道場及び武道場と体育館を複合した重層体育館の整備を行っております。次に、阪神淡路大震災後の平成9年度からは小中学校の耐震を重点的に実施しており順次、体育館・校舎の耐震補強を行うとともに第三中学校、第五中学校、第十小学校で改築工事の実施、平成25年度に建物の耐震化がすべて完了している状態となっております。平成27年度には体育館・武道場の釣り天井などの非構造部材についての耐震化を完了しております。

そのほか、教育環境の充実化を図るため、平成19年度から20年度にかけてト

イレの洋式化。平成26年度・27年度に照明器具のLED化。また、近年では普通教室、特別教室に空調の設置も行っております。

次に、(5)直近の改築した学校施設の面積比較を掲載しております。こちらは近年改築を実施しました小中学校3校の改築前後の校舎面積を示しております。第十小学校では改築後で1.56倍。第三中学校では1.47倍。第五中学校では1.43倍の増加となり学校の改築にあたっては校舎面積が増加する傾向があることを示しております。

7ページをお開き願います。

ここからは児童・生徒数の状況について説明させていただきます。

(1)府中市小中学校の児童生徒数の推移でございます。こちらのグラフは昭和49年度から平成29年度までの児童生徒数を示しております。ピンク色の棒が小学校の児童数。みどり色の棒が中学校の生徒数。青色の折れ線グラフが児童数と生徒数を合わせた合計数となっております。昭和40年代から人口増加に伴い、児童・生徒数は増加していき、昭和56年度に児童と生徒数はピークを迎え、2万5千人となりました。その後、平成11年度まで減少し、平成11年度は1万6千人となりました。その後は、現在まで微増を続けておりまして、平成29年度の生徒数は1万9千人となっております。

8ページをお開き願います。

過去の府中市小中学校の学級数でございますが、こちらのページでは小学校の学級数を示しております。ピンク色の棒が1校当たりの平均学級数。青色の折れ線が1学級当たりの平均児童数を示しております。まず1校当たりの平均学級数の推移でございますが、昭和56年度が21学級と学級数のピークを迎え、その後は平成10年度まで減少傾向となり、平成10年度には16学級となっております。平成29年度は20学級となり、1学校あたりの学級数は増加傾向となっております。次に、1学級当たりの平均児童数でございますが、こちらは昭和55年度の38.8人をピークに現在では概ね減少傾向となり、平成29年度は31人となっております。学級数についてはグラフ上部に水色で記載しておりますが、国や都が定める1学級当たりの児童数に基づき学級編成を行っていることから、1学級当たりの平均児童数に影響を及ぼしていることがわかります。昭和54年度までは全学年で45人学級の学級編成としておりましたが、教育環境の充実を図るために、現在では小学校1・2年生及び中学校1年生が35人学級、それ以外が40人学級となっていることから1学級当たりの児童数は減少し、一方で、1学校当りの学級数は増加傾向にあることを示しております。

9ページをお開き願います。

同様に中学校となりまして、1校当たりの平均学級数の推移ですが、昭和61年

度が19学級と学級数のピークを迎え、その後は平成14年度まで減少傾向となり、平成14年度では14学級となっております。平成29年度は16学級となり、平成14年度以降は1学校当たりの学級数は増加傾向となっております。次に、1学級当たりの平均児童数でございますが、こちらは昭和50年度と54年度が41.5人でピークとなり、それ以降は現在まで概ね減少傾向が続き、平成29年度は34人となっております。

10ページをお開き願います。

(3)府中市の将来人口の推計でございます。細かい将来人口については今後の協議会の中で改めて試算したものを示したいと思っておりますが、今回は府中市の将来人口の傾向を捉えていただきたいと思ひまして、府中市で作成している人口ビジョンのバックデータを用いた推計を掲載しております。本市の人口は、平成22年度が24万9,378人で、現在は微増を続けており、平成37年度は25万9,318人と見込まれております。その後、人口は微減となり、平成72年度には23万5,204人と推計しております。

11ページをお開き願います。

(4)全国の将来人口の推定でございますが、先ほどの府中市と同様、平成32年度から72年度までを推計したものでございます。

日本の総人口は2008年をピークに減少を続けており、2008年度には1億2,805万7千人でしたが、平成72年度には8,673万7千人と見込まれております。本市の人口は2割減程度となっておりますが、全国的には人口減が4割近くにのぼり、本市と全国では大きく傾向が異なることがわかります。

12ページをお開き願います。

(5)府中市と全国の5歳から14歳の将来人口の増減率の比較を、平成27年度を基準年度としてグラフ化したものでございます。この特徴といたしましては二つございまして、1つ目には本市においては平成32年度まで5歳から14歳人口が上昇しており、一方で全国的にはすでに減少を始めている状況にあることとございます。2つ目といたしましては、平成72年度に達しますと、府中市では平成27年度の78.4%となるものの、全国的には50.4%まで減少する見込みとなっており、全国的には大きく児童・生徒数が減少していくものと捉えておりますが、府中市においては将来的な児童・生徒数の見込みについて全国と比べて減少が少ないものと推測されております。

13ページをお開き願います。

(6)府中市の各小中学校の児童・生徒数を学校ごとに直近10年間の推移を記載しております。

前の5年より増加しているところは、黄緑色で塗りつぶしをし、掲載しております。児童・生徒数の増減状況については、小中学校で地域差が生じている状況となっております。なお、各地域の児童・生徒数の将来予測については今後の会議で改めてお示ししていきたいと考えております。

長くなりましたが、説明は以上となります。よろしくお願いいたします。

会長 どうもありがとうございました。資料5と6を使って、特に資料6はかなり多岐に渡る内容が含まれていて、色々な意味で府中市の小中学校が抱える現状であるとか、全国とどういふふうに違っているのかなど、非常に興味深い情報がたくさん含まれておりました。かなり多岐にわたる内容だったのですが、これらについて、何かご質問とかご意見などがあればいただければと思いますがいかがでしょうか。どんな質問でも構いません。

委員 10ページにある府中市の将来人口の推計のグラフですが、昨年、府中市の総合計画の会議に出た時に、府中市では30万人まで人口を増やすというような目標でいくという話があったのですが、このグラフには年数的にも27年度版のデータを元になっているので反映されていないと思うのですが、そうなってくると今後の人口推移が変わるとなると、子供たちの人口ももちろん変わってくると思うので、今後のこの会議での学校施設等にも関わってくると思います。次回の時にでも、昨年度のものでしたので、資料も出せるのではないかと思いますので、それを反映した形で資料をいただけるとよろしいかなと思いますので、よろしくお願いいたします。

事務局 次回の中で将来人口について改めて、私たちの方でも考えたものを作っていきたくて思っております。作成に当たっては、総合計画の方は市全体の計画ですから参考にしながら進めていきたくて思っています。今回の資料については、長いスパンで人口を見たいということがありましたので、人口ビジョンを載せていただきました。

今後は総合計画等の新しいものを使いながら、説明していきたくて思っています。

委員 丁寧な資料でわかりやすいですが、6ページのところで、十小と三中と五中が改築工事をやられているということなんですが、大きく分けて2つの質問があります。

1つ目の質問としての1点目は、どのくらい現在の改修工事にお金がかかっているのかということで、協議会の委員として情報の共有をした方がいいのではないかと考えています。

1つ目の質問としての2点目は、改修後の面積が増えている理由として、1クラスの児童数が減っているから必要な改修面積が増えているのか。その辺のことが、

もし定性的にわかるのであれば教えていただきたい。

会長 今の2点に関してはいかがでしょうか。

事務局 今、手持ちで持っているのが、十小になりますので、その例でいきますと工事費については約35億円かかっておりますので、今後、私たちが作る計画の中でも、事業費については参考にして進めていきたいと考えております。

事務局 2問目の面積が増えている理由でございますが、この面積についての増加要因については、施設担当といたしましても、色々と研究しているところでございますが、基本的には、教育の多様化が進んでおりまして、小人数教室や学級編成の少人数化などの影響、合わせて学校の教育課程が様々変わることへの対応で教室数を増やしていかなければいけないという状況が影響しているかと考えております。そういうことを総合的に加えますと、どうしても設計の段階で、教室数が増加し、施設規模としても、全体的にボリューム感が出ているというふうに、現状では推測しています。

会長 今後の議論の中で、お出し出来るような資料があればご準備いただければと思います。

事務局 今、十小の方でお答えさせて頂いて、三中と五中につきましては、改めて資料を用意したいと思っております。この十小・三中・五中の改築の手法や内容が変わっておりまして、十小につきましては校舎、体育館を含むすべてを改築しておりまして、総事業費で35億と算出しております。三中につきましては、校舎のみで重層体育館の改築費は入っておりませんので、今後、重層体育館にどれくらいかかっているのか、体育館だけの場合どのくらいするのか、プールはどのくらいなのかなど、詳しく合わせて三中と五中の校舎の費用について、資料として用意させていただきたいと思っております。

会長 今後の資料としてご準備いただくことで。数字だけ見ても誤読されるといけないのでわかりやすい資料をご準備いただければと思います。

委員 2つ目の質問ですが、人口予想推計が出ていて、府中市将来予想が出ているのですが、今日結論を出すという話ではないのですが、どのくらいの人口が減る、将来を見込んだターゲットとなっておりますか。どの時点を基準にして、改築計画を作っていくのか、今後の議論の中で出てくるのではないかとともに思いますが、その辺について何かありますか。

5年後を見据えてやるのか、30年後を見据えてやるのかで方向性が変わってく

ると思いますので。

事務局 今後の議論の前提は整理していきたいとは思いますが、今回の改築計画は30年から40年の長いスパンになるかと思いますが、ご指摘いただいたとおり、人口の動態が変わってくるが見込まれます。今回の計画については、そういった状況も踏まえ、例えば8年ごとに改定をしていくといったことを考えております。今回の計画については、直近の課題として、まずは、建築年数が古い学校や構造躯体が悪い学校を重点的に進めていくかと思えます。直近校の人口ターゲットについては、現在の時点では、分かる範囲の規模感で学校の大きさを検討していくのかなと思っています。しかし、将来的に人口は少なくなっていくというところはございますので、例えば、造りや配置で何か工夫ができないかなどの仕組みを盛り込みながら、検討していく必要があるではないかと思っています。いずれにしましても、人口のターゲットについては、前提として、整理していきたいと思えます。

会長 委員のご指摘いただいた点は非常に大事な点だと思います。将来のことになるのでどういふ変化が起こるのかはあくまで推計なので、変化していく中でどのくらいの射程で考えるのかによって色々な考え方が起こりうると思えます。その辺も次回、次々回になると思えますが、審議会の中でも少しずつ議論を深めていければと思えます。他いかがでしょうか。

委員 今の話と関連するかもしれないんですけど3ページのところで、各学校の床面積や築年数とか出てますけど、各学校の児童数もそれぞれバラつきがあると思うので。言っているか分からないですが、例えば少ない学校があったら、片方はなくしてしまうとか。その場合、その学校の改築はなくなるのか。そこら辺の展望はどうなのかということと、逆に多い学校は分けた方が良いのかとかどのように考えていくのか。もう一つは近々で改築をやらなければいけない学校が決まっているのであれば教えていただきたいです。

事務局 委員からいただいたご質問なのですが、少ない学校を一つにまとめる考えは非常に難しい問題もありますが、これについては、今後この計画にはしっかりと盛り込む考えであります。

先ほどお答えしましたが、この現在の1年あまりの考えの中でまとめなければいけないという状況です。その考え方が、今の皆様の総意の中で現状の感覚とマッチしなければいけないとかということもありますので、十分に議論をして、今回の計画の今の段階で明確にしていきたいと思えます。それは、合築・小中一貫ということも議論していきます。場合によっては、建て方の方法として、将来、児童数が減れば一つの校舎がなくせるような捉え方、こういったことも出来るだけ資料を出して、皆さんと議論していければと思っています。次回では、先ほど申しましたよ

うに順位付けの関係で平成26から28年度からの3年間、老朽化対策調査を実施しました。これは生々しい表現になりますが学校名をあげて、こういう状況ですと皆様にお伝えします。それにつきましては次回の資料で皆様に提示できると思いますのでよろしくお願いいたします。以上です。

会長 おそらく次回、色々このような内容についてご議論いただくことになると思いますので、今日はその土台となる全体像が見えるような資料ということでお願いをして出していただいたので、今、色々出ていいるご意見やご質問はとても有意義に、次回の議論に繋がるお話だと思います。他はいかがでしょうか。

これは多分府中市にお住まい方は自分の地域のことでですのでそういった見方になると思うのですが、私は今回改めて資料を拝見して思ったのは、特徴的なことがいくつか起こっていると思うんです。

一つは良いことだと思っているんですけども、10ページ、11ページあたりの比較をみると日本全体として2004年から人口が減り始めていて、こういう状況で減っていくということは全体として起こっているわけですね。ところが府中市はまだまだ人口が微増である。先ほど、総合計画の話もありましたけど、いつ頃ほどの程度のものになるのかは別として、多分その後も微減という形でいくわけです。長いスパンは平らではなければ急に減ることはなくて緩やかに増えて緩やかに減っていく形で何十年と地域の発展が予想されるということですよ。

ただ、その時間の中に何がくるかということ、資料2あたりを見るとはっきり分かりますが、東京オリンピックの後に高度成長するとともに、おそらく府中市のエリアが住宅を中心とする市街地として市街化が進んでかなり人口が増えてきたという中で、おそらく子供たちが非常に多かったので、小中学校が沢山作られたということですよ。たまたま私は東京オリンピックの年に生まれたんですが、50歳を越しています。多分あと10年くらいするとだいぶよたってくる。そういうような年代の小中学校が結構あって、その問題というのが先ほど申しあげたような少し長いなだらかに人口が増えて、緩やかに減る時間の中に、ちょうどそれが合わさってくるというのが、この私たちがこれから議論していかなければいけない、非常に特徴的なことで難しい部分なんだろうと改めて思いました。

ただ、それとは別に、先ほどの委員の自己紹介の話を聞いていても思ったんですが、府中市が景観などの審議会でも話になるのですが、移り住む方も住み続ける方にも、非常に支持されている面があってすごい住みやすいということがあって、その中で非常に愛着を持って住まわれる方が多いんですよ。

これは小中学校の議論とも重なる部分なので、なかなか簡単に答えが出るような問題ではないと思うんですけども、これだけの数のお年頃の学校を抱えているので、是非とも、単に古くなったからどうするか。という議論ではない形で進めていきたいと思っておりますので、引き続きよろしくお願ひしたいと思っております。

その他はいかがでしょうか。

委員 私たち、東部地区スポーツ振興会は小学校 8 校、中学校 4 校で構成されており、小学校であれば 8 小が人口や生徒数が周りにマンション等建設され、増えています。逆に、4 小は大きな開発が出来る環境ではないので、むしろ少しずつ減っていくような状況です。学校によって、クラス数にも違いがあります。そういう中で言うと、それぞれの学校単位で考えた時の老朽化に対する施設の内容も、例えば、教室や校舎の形状とか、古い校舎ですと玄関や廊下が狭いというように異なります。それぞれの人口や児童・生徒数に対応した形で設計が果たして出来るのか。あるいは改築や新設ができるのか、バラつきが出るという点が気になったところです。

会長 今のご意見ということで今後の議論に活かしていきたいと思います。当然建て方の工夫で出来ることもあるでしょうし、それを越えて考えなければいけないこともあるでしょう。公立の小中学校に関しては、どこだけが良くてでは困りますので、その辺の議論・基盤を組み立てていきたいと思います。他はいかがでしょうか。

委員 資料の見方の確認になりますが、13 ページにある、児童・生徒数及び学級数の推移に示されている学級数というのは、あくまで通常級の学級数ということではよかったでしょうか。特別支援学級の併設校とかの学級数はここでは反映されていないということでしょうか。

事務局 はい。

会長 その他はいかがでしょうか。

非常に色々なご意見等いただきましたので、これらは今後の共通認識として、次回以降の議論の土台にさせていただければというふうに思います。

まだ少し時間があるようですので、今もご意見いただきましたけども、今後の学校施設について議論するにあたってこういうことを少し深めておきたいとか、これからの学校施設はこうあるべきなんではないかというご意見があるとか、何でも結構ですので一言ずつ各委員から会議を終える前にご意見をいただければと思っております。

委員 先ほど言いました、府中市の人口を 30 万人に増やしていく部分と、2025 年に農地改革の法律が変わったと思いますけれど、オリンピック後に若干後継者がいない農業の方が畑を手放す確率が少し上がった部分もあるので、他の市より府中市は人口増がまだ伸び続ける期間が長くなるのかなというふうに思っています。

学校をくっつけたり、学校を 1 校なくしたりという話も、ある部分他の地域では

よくあると思うんですが、府中市は校舎を建替えても、教室はまだ増やしている状態で、地域の方がそこに入れる場所であったり、会議やコミュニケーションをとるコミュニティの場所として利用していく形の議論を、ここの場でしていかなければいけないのかなというふうに思っています。資料の3ページ、13ページのところにトリックがあったりもしてまして、私が出た学校でも私の子供が通っている学校でもある第二小学校なんですけど、平成20年、25年、29年と児童数が増えていっているんですけど、この裏にも宮町という町内があるんですけど、第一小学校に渡している状態でもこのような増が起きている状態です。

逆に、ただ単純に生徒数や児童数、学級数だけ見るのではなく、学区の変更もありながらというかたちで生徒数の推移もある、ということも一部の委員の方はご存じないかと思しますので付け加えさせていただきたいと思えます。

事務局への次回の資料の要望なのですが、1児童数に対しての床面積・占有率があるとまた校舎の会議で皆さんから色々な意見が出てくるのかなと思しますので是非要望として出させていただきます。以上です。

委員 この場に参加させていただきましたことに感謝申し上げたいと思えます。今後、協議していく中で私の方から3点提案したいと思っています。

1つ目は、副会長からおっしゃっておいででしたけれど、障害者権利条約が批准され、また、障害者差別解消法が昨年4月に施行されております。教育分野においてはインクルーシブ教育が謳われている中で学校現場においても合理的配慮の提供が求められていることが現状としてございます。この点を踏まえて障害があってもなくても学べる教育環境を整備していくことが求められているというふうに考えております。

2つ目は、市内の小中学校は大規模災害の際に1次避難所に指定されることになっております。高齢者や障害者、乳幼児を連れた方などは福祉避難所が指定されることになるかと思えますが、福祉避難所は発災後、必要性が確認されたあと、数日経過してから開設されるというふうに地域防災計画では規定されております。つまり、小中学校には発災直後、あらゆる人が避難してくることは想定されておりますので、こうした点を踏まえて体育館や特別教室等の整備も考えていくことが必要と思っております。

3つ目は、現在、府中市の社会福祉協議会で各文化センター圏域にわがまち懇談会を立ち上げて、地域の助け合い活動を推進しておりますけれど、文化センターだと圏域がかなり広がっておりますので、それとともに府中市の方針として市民協働が謳われておりますので、住民の自主的活動を推進していく上で、その拠点として小中学校が想定されるというふうに考えております。地域住民のコミュニティを活発にしていくためにも、学校施設が中心となっていくことが必要と考えておりますので、以上3点を提案させていただきました。

委員 高齢者の立場からお話したいと思います。

人口推移を見て、高齢者がもっと増えるんじゃないのかなという気がしていますが、それは別として、学校と高齢者の関係、コミュニティが非常に大事ではないかなと思っております。

そういう対応ができるような学校施設を考えなければいけないというふうに思っております。

それからもう一つは、今、我々が活動しているのは、子供たちの見守り活動です。これも相当力を入れてやっておりますが、そういう面からも学校施設というのは、それに対応する形のものが何か考えられるのかなという気がします。施設だけでなく、通学路も学校の前を通る道路がとても狭いところもあるので、そういうことも少しでも検討でいければ良いのかなという気がしております。

我々高齢者としては、もっともっと色々な面で学校施設を活用したいんです。健康長寿を目指してる中で、そういう面も、少しでも学校施設の中にできればと思っております。

もう一つは、皆さんご存じのとおり災害が起こると、高齢者が一番被害にあっているのは、これは事実ですけれども、そういう面で、防災観点をもう少し見直す時期ではないかと思っております。この委員会ではないかもしれないが、そういうことを頭に入れて検討していただければありがたいと思っております。

委員 私としては、校舎の建替えという大きい部分の話だけがメインになっていってしまうのかなと感じてしまうのですが、3ページの資料を見る限り、建替えが若松小学校に行き着くまで何年かかるのだろうと思います。

例えば、二小も校舎が28年と新しい方になってしまっているのですが、児童数は1,300人まで増えると言われていた中で、現状の校舎だけでどこまで対応していくのかなど、色々な面があります。

先日の市長との懇談会でも、今のこれだけの年数を使っている部分の老朽化がかなり目立ってきている部分もありますし、例えば、八中はコンクリートが落ちたという話が出てきています。さらに、矢崎小学校では、校庭にあるブランコがセーフティエリアの問題かと思いますが、ブランコの支柱は残っているが、もう危険だからということで、ブランコの乗る部分は撤去されており、子供からすれば支柱があるけどブランコができないというのが、幼稚園から上がってきた1年生からすれば、より不思議な状況なものが学校にあるということになっています。

現状での老朽化も少しずつでも、予算化していってもらって対策していってもらわないと、この長いスパンの建替えだけを、じゃあ若小はあと18年後だね、みたいな形で話をしていって、それを学校に説明したところで「あー、そうですね」で終わってしまう会議になってしまうので、並行して、今やれる少しずつだけのことも良いので、これも並行して進めていける会議になれば良いかなと思っておりますので、よろしく願いいたします。

委員 先ほどから災害を踏まえた学校施設は、従来、基本的にいえば学び舎であり、子供たちを育てる為の場であるけれど、地域の中のコミュニティ、なおかつ地域、高齢者を含めた安全を確保する場であるという役割も大きいとっております。そのために今回の学校施設の老朽化対策があるものと認識しております。

私が東部地区スポーツ振興会という組織の中で、参加させていただいたところで言うならば、学校施設の中にあるスポーツ施設である校庭や体育館を子供たちの成長のために有意義に、なおかつ、安全に活用に使わせていただければと思っております。そういった意味で、学校施設の設備、学校本体の施設の改築や老朽化対応する中で、是非、子どもたちが生き生きと学校で過ごせるような、また、スポーツができる校庭やプール、体育館などを充実していけるように話を進めていただけるとありがたいと思います。

委員 義務教育は絶対に地方自治体が最後まで死守しなければいけない最大の事業であるということは、皆さん共通の認識だと思います。その中で表紙の資料をみますと、小中学校が府中市の公共施設43%、約半分弱を占めている中で、これをこれから整備していくことは大変な事業なんだろうと思います。

そうした中で、学校の整備を進めていくことは、最優先の課題になると思っておりますけれども、私の中で理解出来ていないところがあるのですが、学校という公共施設を整備する場合には、全部予算というのは府中市とか地方自治体が持ち出してやるものなのか、あるいは国なり都から費用を持ってこれる可能性があるのか。その辺がどうなのか教えていただきたいと思いました。

ということは、複合化の機能を持たせると、それによって他の所から予算がとれて、結果的に小中学校の整備に活用できるというような筋道がたつのであれば、そういうことを考えていくのが良いのではないかと思います。そのような議論になるかどうかわかりませんが、その辺のところの話が出来れば、より良い小中学校が優先課題として進められるのではないかと思います。

会長 そのあたりは今後、出せるものの中で考えていただければと思います。

事務局 今のご意見につきましては、公共マネジメントの観点からもご意見を含めていると思うのですが、資料の方もお出しできるように準備してまいります。

委員 防犯協会ですと、学校に対しては防犯カメラを設置したという時点しか、今まで関わっていないわけです。この会議に出席いたしまして、どういうふうに防犯協会が学校に関与していくのか、まだ無の状態です。これから考えていこうと思っております。

色々と将来を見据えて、何年後を目標に建替えをするのかという、少子化の問題。

建築・整備基準は建築の方できちんとなされると思いますけれど、学校施設と公共施設との複合化、災害時の避難場所の問題。幼稚園や保育園では管轄が違うといった縦割り行政の問題がある中で、一体どこまでできるのかわからないところもあります。それらが取り払われれば、すべてコミュニティが、小さい幼児からお年寄りまで学校で楽しく、一緒に顔見知りになってコミュニティを活性化しましょうという形ができると思いますが、そこがわからないので、大変難しいのではないかと考えています。

委員 学校というのは子供たちが通う場所であり、安心安全な場所でなければいけないと考えています。

そこは、子供たちにとって学びの場であり、またそれは平時のことであり、いざ災害が起きた時には避難場所として頼る場所でもあるということなので、他の委員がおっしゃったように非常事態にも踏まえた議論が出来れば良いのかなと考えています。

また、人口推移について全体的に少しずつ減っていますが、青少対の地区でいえば、七地区は子供の数が減っている。これ以上増える地域性ではない。また、八地区においては、まだまだマンションが増える場所がある。その地域性を考えて、また、全体はある中でも、地域の個別の案件として、考えていく必要があるのではないかなと考えています。

委員 府中市は地域で地域性が全然違うと感じていて、他の委員が言っていたように地域で特色があると思う。

先ほどの説明の中で、どのプールが廃止になるかはわからなかったのですが、プールがなくなって、もしその地域で建替えるとしたら、地域の人たちも来られるプールにするとか、そういったことも色々考えていけたら良いのかなと思います。

その中で、複合施設は学校がそうなることは理想かなとは思いますが、子どもたちの学習・教育が一番大事なことなので、複合施設ということも考えながらも、そこは守らなければいけない場であることは考えなくてはいけないと考えています。コミュニティももちろん大事だし、地域性を重視したコミュニティを作っていかなければならない。密着している地域と、逆に希薄な地域があるので、希薄な地域に対しては、学校側から盛り上げていけるような学校施設が出来たら良いなと思います。府中市の縦割りの色々な委員会があると思いますが、横のつながりを持って、他の会議の情報をもらいながら、この会議もやっていけたら良いのかと考えています。ここだけで考えても厳しい事がいっぱいあるように感じました。よろしくお願いいたします。

委員 非常に長いスパンで公共マネジメントを考えるということの難題が沢山あるなということを感じているところです。現状で子供たちにとってより良

い教育環境どうあるのか問い続けながらだと思っんですけれど。しかし一方で、この状況の中で、30年、40年を見越した取組をどう進めるのか、ということの意義の大事さも改めて捉えているところです。是非、この会で良い公共事業の在り方についても、目を向けていくことが出来たらなというふうに感じました。どうぞよろしくお願ひいたします。

会長 はい、ありがとうございました。では最後に、一言だけ私からも付け加えておきますけども、今、各委員の皆様のお話しを伺って思ったんですけれども、やはり地域の学校っていうものが、単に、もちろん子供たちの学びの場なので、それは第一義的にそうなんです、その他の色々な役割というのを期待されているんだなというのは、非常に良く分かりました。

それを突き詰めていくと、これは他の委員もおっしゃってましたが、コミュニティの拠点として、どういうふうに学校が学べる場であるとともにコミュニティの場、拠点としてどう位置付けていくのか、ということだと思います。

昨年、大学の課題で学生たちと議論した時に、片方では新しい機能を付け加えて地域に開いていこうと考えるわけですが、他方では、やはり子供たちの見守りも含めたセキュリティをどう担保していくのかという問題があって、ただこれについて、私が思ったのは、その地域の方が、どのくらいそういうことを引き受けられるかによって、どれくらい厳しい水準でセキュリティを決めなければいけないのか、お互いに関係しているような気がしています。

そういう意味で、府中市としてどういう考え方を持てるのか。その時に、制度的に出来ることと出来ないことはあるんでしょうけれども、多分その中間的な、今の制度ではなかなか難しいけど、今後そっちに移って、変えていかないといけないような方向を、どういうふうに乗り越えていけるのかとかですね。そういう議論も出来ると良いのかなと思っました。1年ちょっとの期間で盛りだくさんとはなりませんが、中身の濃い議論を進めさせていただければというふうに考えております。

それでは、最後に議題(3)その他について事務局からご説明いただければと思っます。

事務局 その前に、先ほど私の方で回答させていただきました内容で修正がございます。

1つ目は、学級数の数について普通教室だけかとお質問をいただきましたが、この数については普通学級と特別支援学級の合計した数となっております。

また、先ほど、廃止となる地域プールについてどこのプールかとお話がありましたが、公共施設マネジメントのモデル事業の位置付けの中で、小柳、白糸台、武蔵台、新町プールが対象となっております。

それでは(3)その他について事務局から3点お願ひがございます。

1つ目は、8月21日号の広報ふちゅう、にこの会議の委員の選任に関する記事を掲載します。お名前のほか、学識経験者の方は所属等を、公募市民の方はお住まいの町名を掲載いたしますので、ご了承下さいますようお願いいたします。

2つ目は、次回以降の会議の開催日時の調整についてでございます。次回の会議は9月11日(月)午後2時を予定としております。何かございましたら別途調整をしたいと思います。今のところ、この日時で予定をさせていただきたいと思っております。

今後の時間帯については別途調整していきたいと思っておりますので、ご意見等あれば事務局に言っていただければ、配慮していきたいと思っております。

3つ目は、本日、委員のみなさまの個人番号の確認させていただきご案内をさせていただきましたので、確認がまだの委員の皆様は会議が終わりましたら確認をさせていただきたいと思っております。

以上でございます。

会長 今、ご説明あったその他について ご意見、ご質問ございますでしょうか。

ご説明のあったとおり、次回は9月11日(月)午後を予定させていただくということで 時間帯は調整の上、ご連絡をさせていただきます。そのあと、第3回は11月上旬、第4回は1月中旬になります。皆様、お忙しいと思っておりますので、早めに日程調整をいただいて、皆様の都合の合う時間帯で調整いただければと思っております。

会議の時間帯を含めまして、ご希望があればその時点で早めに申し出ていただきたいと思います。

その他ありますか。

無いようですので、これで第1回学校施設老朽化対策推進協議会を終了させていただきます。

長時間に渡り、お疲れ様でした。議事進行にも、ご協力いただきまして、ありがとうございました。

以上